

第4回三陸地域研究集会
「クロマグロ資源の持続的利用に向けた定置網漁業における技術開発」

日時：2017年12月7日（木） 13:30～17:15

場所：盛岡市大通会館リリオ イベントホール（岩手県盛岡市大通1丁目11-8）

共催：一般社団法人水産海洋学会，国立大学法人岩手大学三陸復興・地域創生推進機構，
（研）水産研究・教育機構水産工学研究所

後援：岩手県定置漁業協協会

コンビーナー：後藤友明（岩手大三陸水研セ）・越智洋介（水産機構水工研）・秋山清二（海洋大）

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------|-------------|
| 1. 挨拶： 大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会長） | | 13:30～13:35 |
| 2. 趣旨説明：後藤友明（岩手大三陸研セ） | | 13:35～13:45 |
| 3. 基調講演 | 座長：秋山清二（海洋大） | |
| 飼育現場から見る漁獲されたクロマグロの取り扱い | 児玉雅章（葛西臨海水族園） | 13:45～14:20 |
| 4. 話題提供 | | |
| (1) クロマグロ資源と資源管理の現状と課題 | 座長：後藤友明（岩手大三陸水研セ） | |
| クロマグロ資源評価の概要と近年の加入動向 | 中野秀樹（水産機構国際水研） | 14:20～14:45 |
| 国内におけるクロマグロ資源管理の状況について | 中村真弥（水産庁漁業調整課） | 14:45～15:05 |
| 岩手県の定置網におけるクロマグロ小型魚の漁獲特性と2017年の状況 | 及川利幸（岩手水技セ） | 15:05～15:25 |
| (2) 定置網における技術開発の現状と課題 | 座長：越智洋介（水産機構水工研） | |
| 定置網に入網したクロマグロ小型魚の選別・放流技術の開発について | 秋山清二（海洋大） | 15:40～16:05 |
| 太平洋クロマグロ漁獲抑制対策支援事業について | 後藤友明（岩手大三陸水研セ） | 16:05～16:30 |
| 7. 総合討論 後藤友明（岩手大三陸水研セ） | | 16:30～17:15 |
| 8. 閉会 | | 17:15 |

開催趣旨

太平洋クロマグロは近年資源が著しく減少しているため、中西部太平洋まぐろ類委員会での国際合意に基づく資源管理が行われている。我が国では、体重30kg未満の小型魚を対象として、2002-2004年の平均漁獲量に対する半減措置がクロマグロを漁獲するすべての漁業種類で2015年から実行に移されている。定置網は、クロマグロを漁獲する主要な漁業種類の一つであるが、漁具を洋上に固定して漁獲する「待ち」の漁業であるため、来遊する魚種を選択的に漁獲することが難しい漁法である。このため、水産研究・教育機構、岩手大学、岩手県水産技術センター、東京海洋大学、有限会社泉澤水産、日東製網株式会社が共同事業体を組織し、平成29年度太平洋クロマグロ漁獲抑制対策支援事業（水産庁補助事業）において、岩手県釜石地区を実証地として定置網からクロマグロ小型魚のみを放流する技術の開発を進めている。当該技術の実用性を適切に評価するためには、産官学の関係者が参集して、広範に意見交換を行うことが必要であると考え、水産研究・教育機構水産工学研究所と岩手大学が本事業体を代表し、水産海洋学会との共催にて研究集会を開催することとした。本研究集会では、クロマグロ資源と資源管理に関する最新情報を報告いただくほか、これまでの定置網における小型魚放流技術開発の現状と課題を整理し、定置網に入網したクロマグロ小型魚の効果的な放流技術の確立と早急な普及を目指した意見交換を行う。